

2023年度入学試験（2月）
大学院デザイン工学研究科

建築学専攻 修士課程
キャリア3年コース

入学試験問題・解答用紙

[小論文]

2023年2月18日（土）
9：30～12：30

＜解答要領＞

1. 解答は、問題用紙の解答記入欄にすること。
2. 問題用紙（解答用紙）のすべてに、受験番号と氏名を記入すること。また、表紙右下に受験番号を記入すること。
3. 裏面は使用しないこと。解答用紙配付枚数が不足する場合は、試験監督に申し出ること。
4. 参照はすべて不可とする。
5. 問題用紙（解答用紙）はすべて提出すること。
6. 別途配付する計算用紙は提出不要。

受験番号	
------	--

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号
小論文 (1 枚目／4 枚中)	建築学専攻 キャリア 3 年コース	不可	不可	
				氏 名

※参照可の場合（ ）

問題 1) 以下の文章を読んで次のページの設問に答えなさい。

開発の巨大な波がスピードを上げながらこの地球を変貌させているかに見えるが、この波によって変貌しつつあるものがもう一つある。それはさまざまな歴史保存体制によって変化を禁じられた地球の表面積が、急速に拡大しているということだ。われわれの知らない、考えたこともない、影響を及ぼすことのできない体制に委ねられた、全世界の巨大なエリア(12 パーセント)が、立ち入り禁止の状態にあるのだ。歴史保存が人知れずその絶頂期に入ったいま、当の歴史保存はその新しい帝国をどうしていいのか、よく分かっていない。

歴史保存はその規模も重要性も年ごとに増しているが、この一見縁遠い領域について何の理論も関心もないというのは危険なことだ。ラスキンやヴィオレ・ル・デュクのような思想家の後に現れた近代主義者たちの傲慢さゆえに、保存主義者が取るに足らない、無意味な存在に見えるようになった。ポストモダニズムも過去について調子のいいことを並べてはいるが、実際は近代主義者と五十歩百歩だ。ラディカルな変化とラディカルな停滞をどううまく共存させていくか、そこにこそわれわれの未来があるのだが、現在のところ策はほぼ皆無だ。

歴史保存が頂点に向かういま、さまざまな不透明性や矛盾が山積しはじめている。

この世界が抱えるさまざまな状態を反映するべく、[ここでの]選択基準はあえて曖昧かつ柔軟になっている。

- * 時の流れは止められないが、歴史保存がもたらすインパクトをどう管理していくか、どうすれば「保存したもの」を生きた状態に保ち、進化もさせられるか、といった戦略的思考はまったく存在しない。
- * 文化によって永続性の捉え方が異なり、素材・気候・環境も千差万別なため、保存の方法も相当に異ならざるを得ない、ということへの意識はきわめて低い。
- * 歴史保存には未宣言のイデオロギーがあって、ある種の正統性を好む。そこから漏れてくるもの——ことに政治的に厄介なもの——を歴史保存は抑圧する。たとえそれが歴史を正しく理解する上で重要なものだったとしても。
- * 歴史保存がその野心の対象をとめどなく広げていくため、新しい建築物と保存建築の時間差は二千年からほぼゼロ年に縮まった。歴史保存が過去に遡るものから未来を予想するものに切り変わるのは時間の問題であり、いずれまったく不用意な状態で決断を迫られることになるだろう。
- * かつてはおもに文化的課題だった歴史保存はいまや政治課題となっており、歴史遺産の保存は一つの権利になっている。そしてあらゆる権利と同様、この権利も政治的適切性に左右される。
- * 正統性のオーラと慈しみを授けることにより、歴史保存は都市開発に途方もなく大きな波を引き起こすことができる。そして多くの場合、過去そのものが、未来の唯一のプランとなる……。
- * 特殊なものだけが保存に値すると判断し、そこだけに力を入れつづける歴史保存は、それ自体の歪みをつくり出しもする。特殊であることがふつうになる。平凡なもの、一般的なものを保存しようという考えは存在しない。

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号
小論文 (2 枚目／4 枚中)	建築学専攻 キャリア 3 年コース	不可	不可	
				氏 名

※参照可の場合（ ）

設問

歴史保存について事例を交えながら、あなたの意見を自由に論じなさい。

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号
小論文 (3 枚目 / 4 枚中)	建築学専攻 キャリア 3 年コース	不可	不可	
				氏 名

※参照可の場合（ ）

問題 2) 100 年前に出版された本に記された以下の文章を読み、現在の建築デザインにおけるその意義について論じなさい。

「立^{ボリユーム}体とは面とは建築を表明する要素である。立^{ボリユーム}体も面も平^{プレーン}面によって決定される。平^{プレーン}面が原動力である。」
ル・コルビュジェ「建築家各位への覚書Ⅲ」『建築をめざして』鹿島出版会 1967、より抜粋

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号
<p>小論文</p> <p>(4枚目／4枚中)</p>	<p>建築学専攻</p> <p>キャリア3年コース</p>	<p>不可</p>	<p>不可</p>	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>
				<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>
				<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>

※参照可の場合 ()

問題3) あなたの研究テーマに関連して、法政大学に最も期待することを述べなさい。

[illegible]